

ボツワナ共和国月報(2019年5月)

主な出来事

【内政】

- 閣僚人事の発表
- ハンティングの解禁を発表
- カーマ前大統領の与党BDP離脱の正式表明

【外政】

- マシシ大統領の天皇陛下御即位に係る祝賀記帳
- 中国との経済・貿易・投資・技術協力に係る第一回共同委員会の開催
- マシシ大統領のラマポーザ南ア大統領就任式への出席

【経済】

- 企業のオンライン登録の開始へ
- S&P, ボツワナ国債格付けを維持
- チョッピーズCEOの職務停止

【文化】

- ソフトボール女子, 東京オリンピック出場をかけた第2ステージへ

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

【内政】

○ カーマ前大統領が与党BDP離脱へ

4日, カーマ前大統領はセロウエで集会を開催し演説を行った。集会に集まったバングワト族の群衆は, 族長であり前大統領であるカーマ氏がBDPを離党することに対し青信号を出した。カーマ前大統領は, 特にツォフワネ副大統領, マカト運輸通信大臣及びコボコ候補(ポビルワ選挙区からBDPの候補として出馬予定)の3人に失望しており, 大変厳しい時間を与えると表明した。(6日:モニター紙)

○ ブタレ保健副大臣の党員資格停止

7日, 与党BDPはタティ西地区選出の国会議員であるブタレ保健副大臣を6か月の党員資格停止処分とする決定を発表した。同副大臣は党内予備選挙でモアビ候補に敗北したにもかかわらず, 総選挙に出馬することを表明し, 与党BDPの予備選挙結果の妥当性に対して裁判所に申し立てを行っていた。(8日:GABZ FMオンライン)

○ 政府, カーマ前大統領の観光大使職の剥奪を検討

ラパカ環境・天然資源保護・観光省次官は, 政府がツェケディ・カーマ前環境・天然資源保護・観光大臣によるカーマ前大統領のボツワナ観光大使としての指名は違法であるとして, 観光大使と

しての職の剥奪を検討している旨発言した。カーマ前大統領は、ツェケディ・カーマ青少年地位向上・スポーツ文化開発大臣が環境・天然資源保護・観光大臣の職責にあった2018年にボツワナ初の名誉観光大使に任命されていた。ラパカ次官は観光大使の指名に係る法律は存在せず、観光大使職の指名につき調査中であるため、現在前大統領の観光大使の職務を停止している旨述べた。これに対し、ツェケディ・カーマ青少年地位向上・スポーツ文化開発大臣は観光大使任命の決定は個人的なものであり、法律とは関係ないと発言した。(8日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ 93万人以上が有権者登録を完了

今年に行われる総選挙に向けて約93万人のボツワナ人が有権者登録を完了した。2014年に実施された選挙では約85万5千人が登録していた。独立選挙委員会は、総選挙に向けて約159万人の有権者登録を目標としていたが、目標には届かなかった。(10日:メヒ紙)

○ 閣僚人事の発表

マシシ大統領は、プレスリリースを通じ新たな閣僚人事を発表した。今般の人事では、パトリック・プレ・ラロツィア(Hon. Patrick Pule Ralotsia)農業開発・食料安全保障大臣及びビギー・ハンダ・ブタレ(Hon. Biggie Ganda Butale)保健副大臣が内閣から解任され、フィデリス・ミリリ・モラオ(Hon. Fidelis Mmili Molao)高等教育・研究・科学技術副大臣が農業開発・食料安全保障大臣に、モイセラエ・マスター・ホヤ(Hon. Moiseralele Master Goya)投資・通商産業副大臣が高等教育・研究・科学技術副大臣に、カラボ・ソクラート・ハレ(Hon. Karabo Socraat Gare)氏が投資・通商産業副大臣に、セトモ・レラティシツウェ(Hon. Sethomo Lelatisitswe)氏が保健副大臣にそれぞれ任命された。(10日:デイリー・ニュース紙)

○ カーマ前大統領、2事案につき政府の提訴を検討

カーマ前大統領は、弁護士を通じ、前大統領による政府所有輸送機の使用の拒否、チベット動乱60周年記念式典参加のためのインド訪問に係る航空券費用支払いの拒否につき政府に回答を求める内容の司法長官宛て書簡を送付した。設定された期間で両者の示談が成立しない場合は提訴の手続きを検討している。(18日:ウィークエンド・ポスト紙)

○ 野党UDC、マニフェストを発表

18日、野党UDCのボコ党首は、選挙に向けたマニフェストを発表した。UDCは、同マニフェストにおいて、1年間で10万人の雇用の創出、3000プラの最低賃金と、1500プラの年金の支払いを主な公約としている。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ 野党APの女性局長の逝去

16日、野党APのブタレ幹事長によると、モチュディAP女性局長がボカモソ民間病院で病死した。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ 干ばつの年を宣言

マシシ大統領は、干ばつ及び家庭の食料安全保障評価分析報告書を検討した結果、2018/19年を干ばつの年であると宣言した。地方自治開発省からの報道発表によると、同年の雨季は二年続けて上半期において国内のほとんどの地域で少量の雨しか降らなかった。干ばつの年を宣言したことにより、農業開発・食料安全保障省、保健省、財務・経済開発省、地方自治開発省等の政府機関は農家への支援、補助金の提供や栄養改善のための子供向け食料の配布等を実施する。(21日:デイリー・ニュース紙)

○ ボコUDC党首、ボツワナ統一歳入庁及び情報保安局を提訴へ

ボコUDC党首は、選挙活動に使用する予定であったジェット機とヘリコプターの2台の押収に関して、ボツワナ統一歳入庁(BURS)及び情報保安局(DIS)がUDCの選挙活動を妨害し、嫌がらせをしていると批判し、両機関を提訴する旨発言した。同党首は、23日に米大使と面会を行い、これらの問題について議論すると述べ、EU代表部をはじめとする多くの大使館に本件に係る書簡を送付した旨発言した。(22日:ボツワナ・ガゼット紙)

○ ハンティングの解禁を発表

政府は全ての関係者との協議の結果、ボツワナにおけるハンティングの停止措置の解除を発表した。(24日:デイリー・ニュース紙)

○ カーマ前大統領の与党BDP離脱の正式表明

25日、カーマ前大統領は自身の出身地であるセロウエにおいて与党BDPからの離脱を正式に表明した。同前大統領は10月に予定されている総選挙でBDPを敗北させるために自身の資金を活用する旨発言した。同前大統領は「現時点では自分ほどの政党にも属していない」と発言する一方で、BDP政権を倒すために他野党及び無所属候補者と共に新党ボツワナ愛国戦線(BPF: Botswana Patriotic Front)を支持する旨発言した。同前大統領はBDP党员カードを取り出し、自身には同カードが必要でないと表明した。BDPに所属する同前大統領の支持者たちはただちに前方に向かい、同前大統領を支持する形で自分たちの党员カードを地面に放り投げた。(26日:サンデー・スタンダード紙, 27日:モニター紙)

○ 新党BPFの結成

25日、ブタレ議員はカーマ前大統領が呼びかけたセロウエでの集会において、新党BPFを正式に登録した旨発言した。同議員はBPFが野党連合UDCと手を組む予定であることを認め、UDCと手を組むことで票が割れることを避け、BDPの議席を奪う旨発言した。同議員は、党で使用する色、シンボル及びスローガンを話し合うために二週間以内に57の選挙区から二名の代表を指名し、6月8日には新党結成を発表し、同時に党を率いる暫定委員会委員を選出するための第一回会議を開催する旨述べた。(27日:モニター紙)

【外交】

○ モザンビーク国会委員会の訪問

4月30日、モザンビーク国会の公共管理及び地方自治委員会はコルウェ国会議長に表敬訪問を行った。ジェレミア・モザンビーク訪問団長はモザンビークが地方分権を適用するための法律の承認を待っており、アフリカ諸国や他大陸の国々を訪問していくつかのモデルを勉強している旨発言した。コルウェ国会議長はボツワナの国会とモザンビークの国会でMOUを検討している旨述べた。(2日:デイリー・ニュース紙)

○ 豪大使のマシシ大統領への離任表敬

マッカーシー豪大使はマシシ大統領を離任表敬し、離任表敬後のインタビューで、豪とボツワナはサバンナにおける火災管理プロジェクトを実施しており、豪はこれまでに6台の消防車をボツワナに寄付した旨発言した。(3日:デイリー・ニュース紙)

○ 象サミットの開催

7日、当地カサネにおいて象サミットが開催され、同サミットにはマシシ・ボツワナ大統領、ガインゴブ・ナミビア大統領、ムナンガグワ・ジンバブエ大統領、ルング・ザンビア大統領等が出席した。同サミットでは、国際社会に対して象の保護及び管理に関する問題について働きかけを効率的に行うことなどを含むコミュニケが決定された。(8, 9日:デイリー・ニュース紙, 10日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ サイクロン・イダイ被災者に係るジンバブエへの支援

ボツワナはジンバブエのサイクロン・イダイ被災者への支援として、ジンバブエ赤十字を通じて25トンの食料及び非食料の支援を行った。(10日:メヒ紙)

○ マシシ大統領の天皇陛下御即位に係る祝賀記帳

9日、マシシ大統領は天皇陛下御即位に係る祝賀記帳を行った。マシシ大統領は、記帳メッセージの中で天皇陛下が日本を導き繁栄と幸福をもたらすことができるよう祈念した。竹田大使は日本政府が上皇陛下の退位後に59歳の皇太子殿下が皇位を継承できるよう法律を提案した旨発言した。(10日:デイリー・ニュース紙)

○ ジンバブエ・モザンビークとのMOUの署名

ボツワナ、モザンビーク、ジンバブエの運輸担当大臣は Ponta Techobanine 計画の延長に係るMOUに署名した。同計画はボツワナ、モザンビーク、ジンバブエの三か国にまたがる鉄道網の建設を含んでおり、貨物や商品を内陸から海に運ぶことを目的としたものである。MOUは2011年4月に結ばれ、2016年に更新されていた。マカト運輸通信大臣は同計画の実現可能性調査を行うために各国が100万米ドルを負担する旨合意している旨発言した。(13日:デイリー・ニュース紙)

○ マシシ大統領、ラマポーザ大統領への祝意を伝達

マシシ大統領は、ラマポーザANC党首が再度大統領に選出されたことに対する祝意を伝達した。また、同大統領は南ア国民が平和的な選挙を実施したことを賞賛した。(14日:デイリー・ニュース紙)

○ オロペン大臣のスイス訪問

オロペン高等教育・研究・科学技術大臣は、スイス・ジュネーブで開催されている国連科学技術開発会議(UNCSTD)の会合に出席し、ボツワナが第23回開発のための科学技術委員会の議長に選出されるべく働きかけ及びスピーチを行った。(17日:デイリー・ニュース紙)

○ 中国輸出信用保険会社訪問団のマシシ大統領への表敬

16日、宋会長が率いる中国輸出信用保険会社(Sinosure:China Export and Credit Insurance Corporation)の訪問団は、マシシ大統領を表敬した。マシシ大統領は、外国投資家が一貫してボツワナでビジネスを行うことが可能な環境、投資家が守られた法的な枠組みの中で働くことができるような環境を作り出すことに努力してきた旨発言した。宋会長は、中国輸出信用保険会社及び両政府が、ボツワナと中国の貿易をさらに促進するために協力可能な分野を特定する目的でボツワナを訪問した旨説明した。(20日:デイリー・ニュース紙)

○ 中国との経済・貿易・投資・技術協力に係る第一回共同委員会の開催

22日、ハボロネにおいてボツワナと中国との経済・貿易・投資・技術協力に係る第一回共同委員会が開催され、同委員会にはモレフィ大統領府・統治・公共政策担当大臣、中国商務部の銭副部長、ハレ投資・通商産業副大臣、ホイツツェマン外務国際協力省次官、セラメ投資・通商産業省次官、パライ駐中国ボツワナ大使、ザオ中国大使等が出席した。モレフィ大臣は、同委員会の開催がボツワナの「一つの中国政策」を支持するという約束と二国間関係をより深化させ、拡大させるという決意を再確認することを意味すると述べた。銭商務副部長は、中国企業が2018年末までにボツワナで85億7000万米ドル相当の労働力を使用し、1936名の現地スタッフを雇用したと述べた。(23日:デイリー・ニュース紙, 24日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ マシシ大統領のラマポーザ南ア大統領就任式への出席

25日、マシシ大統領はラマポーザ南ア大統領の就任式に出席した。プレトリアで行われたインタビューでマシシ大統領は2020年にAU議長をエジプトから引き継ぐラマポーザ大統領をAUのビジョン2063の実現に向けて支持することを約束した。(27日:デイリー・ニュース紙)

○ ナタ・マウン道路改修計画のためのF/S調査に係る交換書簡の署名

24日、ボツワナ政府と中国政府は340万プラ規模のナタ・マウン道路改修計画のためのF/S調査に係る交換書簡に署名し、同書簡の署名式にはマタンボ財務経済開発大臣、ザオ中国大使ら

が参加した。マタンボ大臣は、ボツワナの開発アジェンダの実現に向けた中国の貢献に感謝し、同F/S調査に係る資金を全て中国が負担する旨発言した。ザオ中国大使は、交換書簡の署名がナタ・マウン道路の改修の始まりを示すものであると述べ、同書簡の署名が昨年中国で開催された第3回FOCAC期間中に行われた中国・ボツワナ首脳会合の結果である旨発言した。(27日:デイリー・ニュース紙及びモニター紙)

○ マシシ大統領の米国訪問

29日、マシシ大統領は米国を訪問するためにハボロネを出発した。米国ではJCKラスベガス貿易展に参加する他、スタンフォード大学との連携に向けてカリフォルニアを訪問し、富裕層向けの宝石商を視察するためにニューヨークを訪問する予定である。(29日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

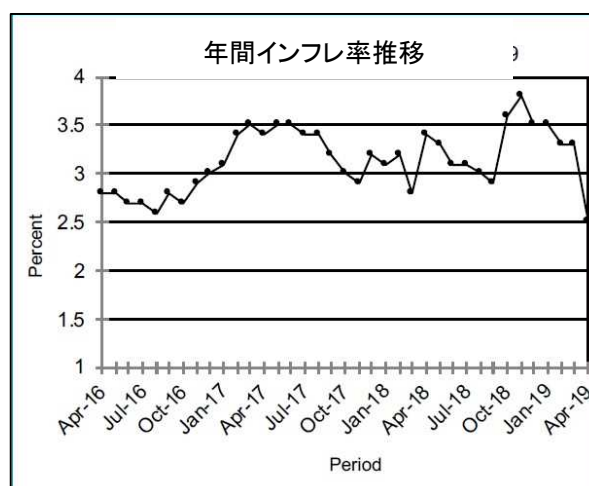
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2018年第4四半期の GDP は484億9160万プラとなり、第3四半期(486億9930万プラ)と比べて0.5%減となった。2018年の経済成長率は前年の2.9%から上昇し、4.5%となった。(2018年GDP合計は1898億6850万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2019年4月は2.5%(3月は3.3%)。



3) 為替レート(出典: First National Bank of Botswana)

2019年5月31日

1プラ=0.089米ドル
1プラ=1.312南ア・ランド
1プラ=9.81円

2019年4月30日

1プラ=0.090米ドル
1プラ=1.293南ア・ランド
1プラ=10.19円

[米ドル] 為替推移(1プラ=〇米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=〇円)



○ ダイヤモンド産業

1) デブスワナ社の第1四半期ダイヤモンド生産, 前年比2%上昇

デブスワナ社(当館注: デビアス社と政府の合弁企業)の第1四半期におけるダイヤモンド生産は約600万カラットとなり, 前年同時期と比べ2%上昇した。(10日: メヒ紙)

2) デビアス社, ダイヤモンド探査船を造船へ

アングロ・アメリカン社は, デビアスグループとナミビア政府が出資するデブマリン・ナミビア社が4億6800万米ドル規模の特注ダイヤモンド探査船の造船を承認した旨発表した。新しい船はデブマリン・ナミビア社の7番目の船となり, 2022年にはダイヤモンド生産を開始し, 現在の生産量の35%増である年50万カラットのダイヤモンド生産を目指す。(22日: ボツワナ・ガゼット紙)

3) デビアス社の第4期ダイヤモンド原石売上減少

デビアス社の第4期ダイヤモンド原石販売会における売上は4億1500万米ドルとなり, 前年同時期よりも25%減少した。デビアス社のクーパーCEOによると, 同売上の減少はインドのダイヤモンド加工, 研磨企業が伝統的な休日のために一時的に休業したことにより, ダイヤモンド原石への需要が落ち込んだことによるものである。(24日: メヒ紙)

○ エネルギー・資源

1) Tlou Energy 社の発電を許可

1日, 鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障省は, Tlou Energy 社の 20MW のコールベッドメタン(CBM)発電を含む環境影響声明を承認した。同社のギルビー社長は同声明の承認がレセディ CBM プロジェクトの進捗を劇的に早め, 商業化の実現するための柔軟性を会社に提供する

るものであると述べた。(11日:ウィークエンド・ポスト紙)

2) ボツワナ・エネルギー規制庁役員の職務停止

モラレ鉱物資源・環境保全技術・エネルギー安全保障大臣は、ボツワナ・エネルギー規制庁 (BERA) 役員の職務停止措置を発表した。同措置は、BERA におけるコーポレートガバナンスの乱用及び欠如に係る告発により行われた調査を受けて実施される。本件に係る進展があれば随時報告がなされる。(16日:デイリー・ニュース紙)

3) ノリリスク社と BCL 社の争いはロンドンへ

露ノリリスク社と BCL 社の3年にわたる30億プラ規模の争いはロンドンに移った。当地の控訴裁判所は最近ノリリスク社に2014年の株売買に係る係争案件をロンドン国際仲裁裁判所に持ち込むことを許可した。(17日:メヒ紙)

○ 企業のオンライン登録の開始へ

ボツワナで企業の登録及び知財権利の保護を目的としている企業知財局 (CIPA) は、6月3日より企業のオンライン登録を開始する。CIPA職員によると、新登録システムにより、簡単に登録できるようになり、安全なオンラインでの費用支払い、無料でオンラインでの企業検索、情報の更新、オンライン書類証明の取得等が可能となり、24時間申請を行うことができる。今後、全ての企業はオンラインで登録することとなり、全ての既存企業は本年6月から2020年6月までに新システム上で再登録する必要がある。2020年6月までに再登録をしなかった企業は登録から除外されることとなり、企業の所有者は全ての企業情報を再度更新することが必要となる。(2日:デイリー・ニュース紙)

○ 南北導水管の13日間の閉鎖

水公社は5月6日から13日間の南北導水管の閉鎖を発表した。水公社職員によると、同導水管の閉鎖により、ロバツェを含むハボロネ都市圏が影響を受ける見込みである。(3日:デイリー・ニュース紙)

○ S&P、ボツワナ国債格付けを維持

S&P グローバルレイティング社は、2019年ボツワナ国債の格付を従来の長期国債 A-、短期国債 A-2に維持することを発表した。(3日:ボツワナ・ガーディアン紙)

○ チョッピーズ CEO の職務停止

22日、国内大手スーパーマーケットチェーンであるチョッピーズ社のモハエ役員(元大統領)を中心とする役員会はラマチャンドラム CEO を職務停止処分とし、イスマイル副役員議長を CEO 代理とすると発表した。同 CEO の職務停止は20日に実施された役員会で決定された。チョッピーズグ

ループは、昨年通年決算を発表できず、会計上の混乱をめぐり紛糾していた。チョッピーズ社は CEO が職務停止となった理由を明確にしなかったが、3月5日に小売業者から発表された法的な調査、犯罪に係る調査に関するものであることを示唆した。法的な調査は5月末に終了することが見込まれ、犯罪に係る調査は6月末に完了する予定である。同 CEO は役員会の決定に失望した旨発言した。(25日:ウィークエンド・ポスト)

○ 南アからの豚及び豚肉の輸入禁止

政府の発表によると、南アフリカでは家畜及び野生の豚のアフリカ豚コレラが報告されたことから、南アからの豚及び豚肉の輸入を禁止した。(27日:デイリー・ニュース紙)

【文化】

○ ソフトボール女子、東京オリンピック出場をかけた第2ステージへ

ボツワナ女子ソフトボール代表チームは、週末プレトリアで行われたアフリカ予選で南アフリカを8-1で下し、一位となったことで、7月23日から27日にオランダ・ユトレヒトで開催されるアフリカ・ヨーロッパ予選に参加することが決まった。同予選にはアフリカからボツワナと南アが参加し、ヨーロッパ6か国と1つのオリンピック出場枠をかけて試合が行われる予定である。(13日:モニター紙)